



ハイネ全詩集 I

井上正蔵 訳

歌の本

BUCH DER LIEDER



角川書店

歌 の 本

ハイネ全詩集

第 一 卷



昭和47年10月10日初版発行

訳 者 井 上 正 蔵

発行者 角 川 源 義

印刷者 橋 本 伝 四 郎

製本者 鈴 木 俊 一

表紙彫金者 綱 井 吉 太 郎

発行所 株式会社 角 川 書 店

東京都千代田区富士見2-13

郵便番号102・振替東京195208

電話 東京(03)265-7111(大代表)

新興印刷・鈴木製本 落丁・

乱丁本はおとりかえ致します

歌の本



目 次

第三版の序

三

若き悩み

夢の絵

- 1 むかしゆめみた……
- 2 じつにふしぎな……
- 3 夜中の夢で……
- 4 夢で ぼくは……
- 5 なにが騒がす……
- 6 しずかな夜の……
- 7 「さあ 買う金が……
- 8 深夜彼女^{ヘレン}の……
- 9 ぼくは横になり……
- 10 さて おれは 呪文で……

二画 三画 四画 五画 六画 七画 八画 九画 十画 十一画

小曲

- 1 朝めざめては……
 - 2 ええ じれったい……
 - 3 うらみを胸に……
 - 4 かわいいひとよ……
 - 5 うるわしい わが悩みの……
 - 6 待てよ お待ちよ……
 - 7 山々も城も……
 - 8 はじめはほとんど絶望し……
 - 9 薔薇と糸杉と……
- 譚詩調
- かなしい少年

六画 七画 八画 九画 十画 十一画 十二画 十三画 十四画 十五画

2	山の声	二〇〇	15	後悔の唄	二〇一
3	ふたりの兄弟	二〇三	16	ある歌姫に	二〇三
4	あわれなベーター	二〇七	17	ドゥカーテン金貨のうた	二〇五
I	ハンスとグレーテ……	二〇七	18	パーダアボルの荒野の会話	二〇七
II	うづく痛みの……	二〇九	19	ごきげんよう	二〇九
III	うつむき青ざめ……	二〇九	20	実際には	二一〇
5	囚人の歌	二二		十四行詩	
6	近衛兵	二二三			
7	使者	二二六		A・W・フォン・シュレーゲルに	二二六
8	家への誘い	二二八		わが母 B・ハイネに	二二八
9	ドン・ラミロ	二三〇		I ぼくは いつも……	二三〇
10	ベルシャザル王	二三三		II もの狂おしい……	二三三
11	恋愛歌人	二三八		H・Sに	二三八
12	窓のながめ	二四〇		クリスチャン・Sにおくる	二四〇
13	傷ついた騎士	二四三		壁画ふうのソネット	二四三
14	舟出	二四四		I ぼくはいっしょに……	二四四

Ⅰ	仮面をこっちへくれ……	一五
Ⅲ	ぼくは笑ってやる……	一七
Ⅳ	ぼくの脳裡に……	一八
Ⅴ	しずかな もの悲しい……	一九
Ⅵ	「二年まえに……」	二〇
Ⅶ	友よ 避けたまえ……	二二
Ⅷ	きみはよく知っている……	二四
Ⅸ	泣きたいのだ……	二五

抒情插曲

序 詩		一六
1	つぼみひろく……	一七
2	なみだより……	一八
3	ばら ゆり……	一九
4	おまえの瞳を……	二〇
5	とてもかわいい……	二一

6	頬に頬よせ……	二六
7	わたしは心を……	二九
8	星たちは……	三〇
9	歌の翼に……	三〇
10	もゆる陽を……	三〇
11	清き流れの……	三〇
12	愛しちやいないと……	三〇
13	誓いはまっぴら……	三〇
14	あのひとの……	三三
15	世間をつんぼで……	三三
16	あらたまつて……	三四
17	波の泡から……	三六
18	うらみはしない……	三七
19	みじめな女よ……	三八
20	あれはフルートと……	三〇
21	きれいに忘れちゃったね……	三三

22	ぼくの心の……	三三
23	なぜ ああ ばらは……	三四
24	みんながおまえに……	三六
25	菩提樹の花が咲き……	三八
26	あれこれ言い合い……	三九
27	ずいぶん義理を……	四〇
28	大地はずっと……	四二
29	うっかり長く……	四三
30	ちいさい瞳は……	四五
31	世はうつくしく……	四七
32	恋びとよ……	四八
33	きたぐにの……	五〇
34	ああ おれが……	五一
35	恋びとと……	五二
36	ぼくのおつきな……	五三
37	俗物どもは……	五四
38	すぎし日の……	五六
39	ある若者が……	五七
40	むかしおまえの……	五八
41	涙にぬれて……	五九
42	仲むつまじく……	六〇
43	古いお伽の……	六一
44	ぼくはおまえが……	六二
45	晴れてあかるい……	六三
46	ぼくの恋は……	六四
47	かれらはぼくを……	六五
48	おまえのかわいい……	六六
49	わかれには……	六七
50	一同食卓かこんで……	六八
51	ぼくの歌には……	六九
52	むかしの夢を……	七〇
53	山のうえまで……	七一

54	ぼくの馬車は……	二六	3	春の日は……	三六
55	ぼくは夢で……	二六	4	森をさまよい……	三〇
56	夜ごとの夢で……	二六	5	夜はしとと……	三一
57	雨風はえる……	二六	6	旅さきで……	三三
58	秋風に……	二五	7	漁師の家の……	三六
59	星がひとつ……	二七	8	きれいな漁師の……	三〇
60	夢の神に……	二九	9	月がのぼり……	三三
61	つめたいしずかな……	二九	10	風がズボンを……	三四
62	だれでも自殺したものは……	二九	11	嵐がダンスの……	三六
63	いずこにおれが……	二九	12	夕べが迫ってきて……	三八
64	夜がわたしの……	二九	13	あなたの家の……	三三
65	やぐさなむかしの……	二九	14	入日のなごり……	三四
			15	むこうの山の……	三六
			16	はるかなる……	三六
			17	よう ひさしぶり……	三〇
			18	こうしてまたも……	三三
2	どうしてこんなに……	三五			
1	おもえば くらい……	三三			
	帰郷				

19 あの娘がころ……
 20 夜は しずか……
 21 おまえはどうして……
 22 娘が部屋で……
 23 くらい夢のなかだった……
 24 おれは不幸な……
 25 年は明け……
 26 夢で かなしげに……
 27 どうしようと……
 28 あおじろい秋の……
 29 いやな天気だ……
 30 はげしい恋の……
 31 おまえの白い……
 32 惚れてるきみの……
 33 たがいに惚れて……
 34 いろんな苦痛を……

三三
 三四
 三五
 三六
 三七
 三八
 三九
 四〇
 四一
 四二
 四三
 四四
 四五
 四六
 四七
 四八
 四九
 五〇

35 悪魔を呼んだ……
 36 人間よ……
 37 東方からきた……
 38 ねえ ぼくたちは……
 39 心は重く……
 40 暗い雲の……
 41 夢にいとしいひとを……
 42 ねえきみ いつも……
 43 できたばかりの……
 44 ばかなまねは……
 45 ヴィスワミトラという……
 46 心よ わが心よ……
 47 花さながらの……
 48 そうなりやおまえ……
 49 夜はしとねに……
 50 ちいさな赤い……

五〇
 五一
 五二
 五三
 五四
 五五
 五六
 五七
 五八
 五九
 六〇
 六一
 六二
 六三
 六四
 六五
 六六
 六七

51	そとには雪が……	三九七
52	他人はマドンナに……	三九八
53	この青ざめた顔から……	三九九
54	ねえ きみ きみは……	四〇〇
55	あなたのそばに……	四〇一
56	おまえのあまい……	四〇三
57	惚れたふりして……	四〇五
58	世界も人生も……	四〇六
59	いろんなことを……	四〇七
60	今宵は客が……	四〇八
61	ありとある……	四一〇
62	ダイヤモンドや……	四一二
63	はじめて恋を……	四一四
64	ぼくに助言や……	四一五
65	こんな愛すべき……	四一七
66	自分が神に……	四一九
67	七月のさなかに……	四二五
68	はや美しい唇からは……	四二六
69	夜どおしぼくら……	四二七
70	たわけたやつが……	四二八
71	さながら暗い……	四三〇
72	ぼくのほんとの……	四三二
73	おまえの肩の……	四三三
74	青い服着た……	四三五
75	このおれも……	四三六
76	ほんとにそれほど……	四三七
77	おもえばこの眼は……	四三八
78	きみらはぼくを……	四四〇
79	宦官どもは……	四四二
80	サラマンカ市の……	四四三
81	となりには……	四四五
82	はじめて会った……	四四七

83	もう太陽が……
84	ハレの町の……
85	たそがれの夏……
86	日は暮れた……
87	死こそ涼しき……
88	「ふしぎなつよい……
	神々のたそがれ
	ラトクリッフ
	ドンニャ・クララ
	アルマンゾル
1	コルドヴァの……
2	いそぎ足に……
3	アルコレアの……
	ケエヴラール巡礼行
1	窓べに母が……
2	ケエヴラールの……

四八	
四九	
五〇	
五一	
五二	
五三	
五四	
五五	
五六	
五七	
五八	
五九	
六〇	
六一	
六二	
六三	
六四	
六五	
六六	
六七	
六八	
六九	
七〇	
七一	
七二	

3	病んだ息子と……	四六
	ハルツの旅から	
	プロローグ	
	山の牧歌	
1	山には小屋が……	五〇
2	樅はみどりの……	五〇
3	そとでは月が……	五〇
	羊飼の子	五三
	ブロッケン山上	五三
	イルゼ川	五三
	北海	
	第一輯	
1	戴冠式	五三

2	たそがれの薄明	五七
3	落日	五九
4	浜辺の夜	五四
5	海神 ガゼイドン	五〇
6	告白	五四
7	夜の船室にて	五七
8	嵐	五三
9	海の風	五七
10	海のまぼろし	五〇
11	純化	五八
12	平和	五六

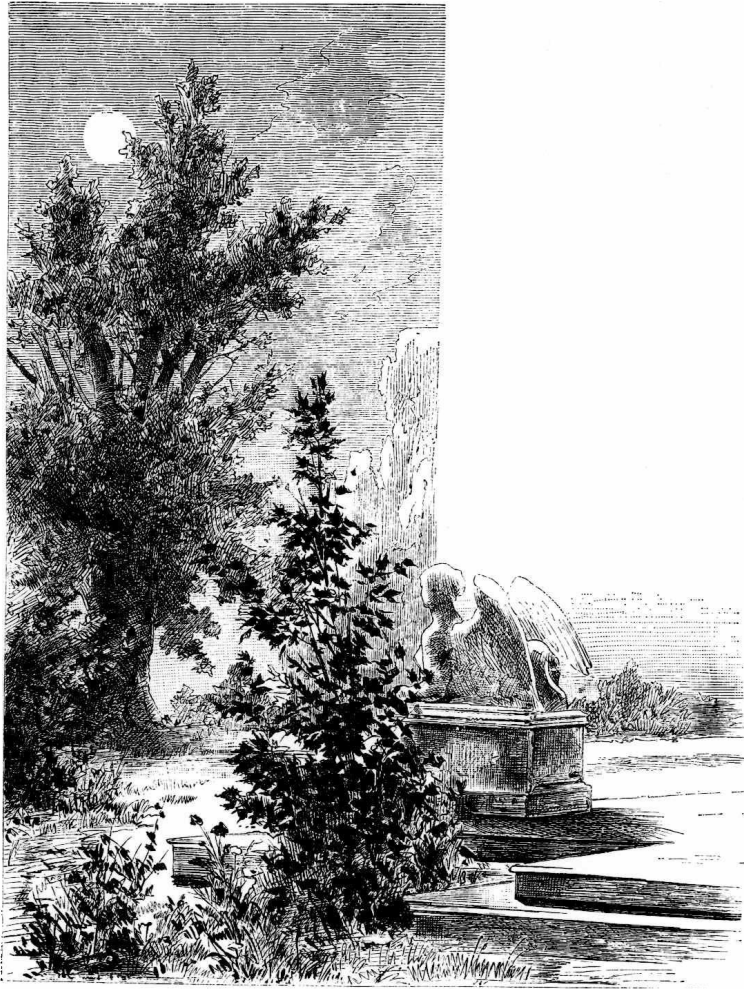
略注
解説

10	エピソード	六二
9	港にて	六六
8	不死鳥 フニックス	六三
7	疑問	六二
6	ギリシアの神々	六〇
5	海の精のうた	五七
4	日没	五三
3	難破者	五九
2	雷雨	五七
1	海への挨拶	五二

第二輯

六四
六元

第三版の序



これぞむかしのお伽の森よ
菩提樹の花 匂いただよう
えもいいがたい月の光に
うるみとろける私の心

さきへ歩めば歩むにつれて
高いところでさえずるひびき
小夜啼鳥の歌うしらべは
胸のおもいと恋のかなしみ

胸のおもいと恋のかなしみ
歌いつづける 涙と笑い
悲しいさけび 嬉しいむせび
忘れた夢がふたたび浮かぶ